

蝶と蛾 *Trans. lepid. Soc. Japan* 47 (2): 108-110, June 1996

## インドネシア，タニンバル諸島産のハレギチョウ *Cethosia chrysippe* の1新亜種

川合 三男

198-01 東京都青梅市沢井 1-252

### A new subspecies of *Cethosia chrysippe* (Fabricius) (Lepidoptera, Nymphalidae) from the Tanimbar Is

Mitsuo KAWAI

1-252, Sawai, Ome-shi, Tokyo, 198-01 Japan

**Abstract** A new subspecies of *Cethosia chrysippe* (Fabricius) is described from Yamdena I., a main island of the Tanimbar Islands.

**Key words** Nymphalidae, *Cethosia chrysippe* (Fabricius), *Cethosia chrysippe antoni* subsp. nov., Tanimbar Is, taxonomy.

タテハチョウ科のハレギチョウ属 *Cethosia* は、インド・オーストラリア区に15種が知られている。幼虫がトケイソウ食いの毒蝶で、橙色と黒を基調にした成虫は美しいものが多い。とりわけ、ペレン島の *ribbei* はこの世のものとは思えぬ美しい青紫色に輝き、セレベスの *myrina* は赤紫色の幻光を放ち、幻想の世界に導いてくれ、チモールのキベリハレギチョウ *leschnaulti* のエキセントリックな斑紋は興奮せずにはおれない。あまりにも毒々しい美しさのため、いささかの気恥ずかしさもあって、私はひそかにこの仲間を集めていた。

最近、古くからの友人であるバリ島在住の出谷裕見氏を通して、タニンバル諸島の中で最も大きい Yamdena 島で採れた奇妙なハレギチョウの一種を入手した。この蝶は、出谷氏と共同でインドネシアに飼育工場を作り、蝶の飼育を試みているアンボン島在住の La Anton 氏の採集人が採ったもので、全面黒色の翅が紫の幻光を放ち、逸品ぞろいのハレギチョウの中でもひととき美しく、一見して他の既知種とは異なる印象を与える特異なものであった。新種と考えてまず間違いないものと思われたが、裏面の斑紋がモルッカ諸島からニューギニア周辺に分布する *C. chrysippe* (Fabricius, 1775) に良く似ており、その亜種とする考えも否定しきれなかった。そこで雄交尾器を比較したと

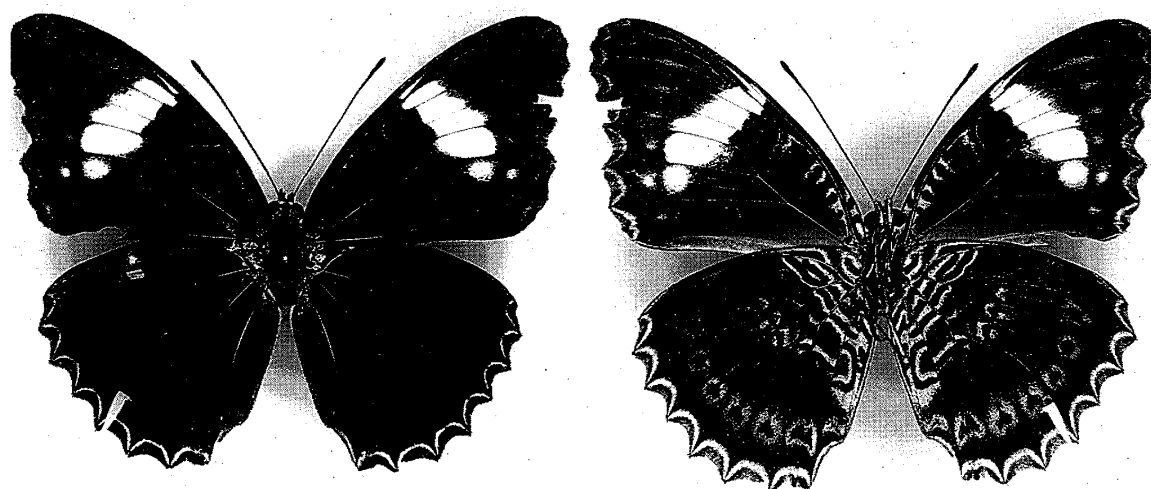


Fig. 1. *Cethosia chrysippe antoni* subsp. nov., holotype ♂ (left: upperside, right: underside).

ころ、期待に反して両者の形態は完全に一致しており、やはり *chrysippe* の新亜種とするのが相当であるとの結論に至ったので以下に記載する。

***Cethosia chrysippe antoni* subsp. nov. (Fig. 1)**

♂♀. 前後翅とも地色は黒色で紫の光沢を帯び、全く橙色部を持たないことから既知のどの亜種からもただちに区別できる。前翅の白色帯は前縁に向かって細くなる。後翅亜外縁の白条列は非常に明瞭。裏面の地色は暗い赤紫色であるが、前翅の基部はやや明るく橙色味を帯びる。

雄交尾器 (Fig. 2). 比較に用いた西イリアン (ssp. *claudilla* Fruhstorfer) やバチャン島 (ssp. *bernsteini* Felder) の標本との差異は見られない。従来図示されたことがないが、valva の先端部が二分するのが種 *chrysippe* の大きな特徴である。

Holotype. ♂, Indonesia, Tanimbar Is, Yamdena I., 12. v. 1995, 神奈川県立博物館 (自然) 所蔵。  
Paratypes. 4 ♂ 2 ♀, 同地, viii. 1995.

種 *chrysippe* は、オーストラリア北東部に位置するヨーク岬半島の原名亜種の他に 17 亜種が知られている (D'Abrera, 1985)。この新亜種の模式産地であるタニンバル諸島に近接するモルッカ諸島からは、*bernsteini* Felder (バチャン, ハルマヘラ, モロタイ), *obiana* Fruhstorfer (オビ), *iphigenia* Fruhstorfer (ブル), *ino* Cramer (セラム, アンボン), *insulata* Butler (カイ), *cydalima* Felder (アル) など、多くの亜種が知られている。これらの亜種は多少の違いはあるものの、基本的には前後翅とも基半部が橙色で、タニンバルの新亜種とは一見して区別できる。タニンバルからは遠く隔たったニューギニア東方にある島嶼群のいくつかの亜種 (トロブリアン諸島の *cleanthis* Fruhstorfer, ダントルカストー諸島の *alkmene* Fruhstorfer, ウッドラーク島の *woodlarkiana* Fruhstorfer) では橙色部の暗化あるいは黒化が著しいようであるが、私は標本を実見したことがない。ただし、Fruhstorfer (1912) や D'Abrera (1985) によれば、この 3 亜種では少なくとも雄には翅の基半部の赤味は残っているようである。これらの亜種とは将来充分に比較検討してみたいが、種の分布の東西のはずれの地域に黒化した亜種がいることはきわめて興味深い。

最後に、アンボン、セラムの個体群の亜種名について付記しておきたい。D'Abrera (1985) では亜種名として *cydippe* Linnaeus, 1767 を用いているが、この名前は同じ著者によって全く別の種 [ウラ

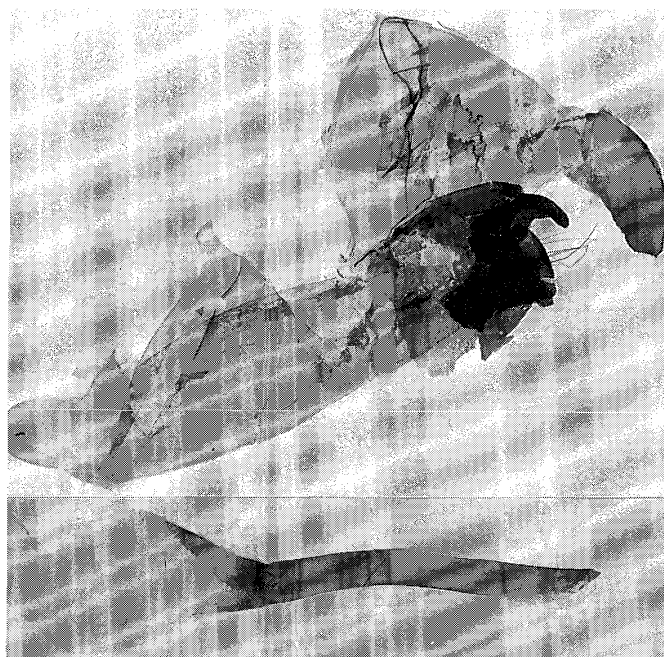


Fig. 2. Male genitalia of *Cethosia chrysippe antoni* subsp. nov., holotype.

ギンヒョウモン] に対して命名された *Papilio cydippe* Linnaeus, 1761 の新参一次ホモニムであって、永久に使用することのできない無効名である。したがって、同地域の個体群に対する有効な亜種名としては、次に古い *ino* Cramer, [1775] を使用しなければならない。なお、ハレギチョウ属 *Cethosia* Fabricius, 1806 の模式種はこの *cydippe* Linnaeus, 1767 であるが、動物命名審議会のオピニオンによって、*cydippe* Linnaeus, 1767 を名義上の模式種として引用することは認められている。

## 謝 辞

本稿をまとめるにあたり、出谷裕見、La Anton の両氏には標本の入手にあたってご尽力いただいた。また、大谷卓也、西山保典の両氏には数々のご教示をいただいた。記して厚くお礼申し上げる。

## 文 献

- D'Abrera, B., 1985. *Butterflies of the Oriental Region*. Part II. Melbourne.  
 Fruhstorfer, H., 1912-1915. Nymphalidae. In Seitz, A. (ed.), *The Macrolepidoptera of the World* 9: 453-766, pls 107-137. Stuttgart.  
 塚田悦造, 1985. 東南アジア島嶼の蝶 4 (上). 558 pp. (157 pls). 東京.

## Summary

The genus *Cethosia* Fabricius, 1806 has been known to comprise 15 species in the Indo-Australian region. Recently I got a short series of specimens of an unknown and very curious *Cethosia* species collected at Yamdena I., the Tanimbar Is. After my careful examination, it was concluded that the specimens belong to *C. chrysippe* (Fabricius), widely ranging from the Moluccas to N. Australia, and represent a distinct new subspecies.

***Cethosia chrysippe antoni* subsp. nov.** (Fig 1)

♂♀. Both wings with ground color blackish with deep purple luster, lacking the proximal large reddish area seen in nearly all the known subspecies of *chrysippe*. Forewing with white postmedian band gradually narrowed towards costa. Hindwing with subterminal row of white stripes conspicuous. Underside of both wings dark purple except rather pale, reddish proximal area of forewing. Male genitalia are as shown in Fig. 2.

Holotype. ♂, Indonesia, Tanimbar Is, Yamdena I., 12. v. 1995, preserved in the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History, Odawara. Paratypes. Same locality as holotype, 4 ♂ 2 ♀, viii. 1995.

*C. chrysippe* (Fabricius) has been known to be composed of 18 subspecies, in which *cleanthis* Fruhstorfer from the Trobriand Is, *alkmene* Fruhstorfer from the D'Entrecasteaux Archipelago and *woodlarkiana* Fruhstorfer from Woodlark I. have the proximal area of wings rather dark, but not so blackish as in the new subspecies.

(Accepted January 14, 1996)